第 2018-29 号

恵みと真理のニュース

2018 年 7 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

重なる苦難を経験をしていた私に勝つ力を与えてくださり、家族を救ってくださった神様の恵みに感謝捧げます

私は全羅南道のヘナムの田舎で熱心に偶像崇拝をする家庭で生まれ育ちました。仏教の信者である祖母は父は長男である兄の誕生日になると家に巫女を連れて来て祭祀をするほど丹念に偶像崇拝をして占いを信じました。田舎だったので教会がなかったですが、いつかから友達の家でイエス様信じる方々が集まって礼拝をささげて聖書勉強をし始めました。市内にある教会の執事が毎週４㎞が離れた遠くから来て礼拝を導いて少ない信者達に讃美歌と聖書を教えてくだしました。私も小学校に入る前、子供達にも賛美と聖書を教える集まりに何回も参席しました。賛美して聖書の御言葉を聞いて習うことが好きで祖母と母の密かに畑を渡って友達を家に行ったりしました。そうするうちに、ある日、祖母にばれて大きく叱られました。祖母は私に一つの家庭で二つの神を信じると家庭が滅びるからだめだとよく言われました。
学校を卒業をしてソウルに来て職場生活を始めました。初めて親を離れて遠くソウルで生活をしようとしたらとても寂しくて怖かったです。バスに乗って行く道に草だけ見ても故郷が思いだしてうれしくてまた懐かしくて涙が出ました。職場生活をしてから２年が過ぎたとき、友達から旦那を紹介してもらい結婚しました。真面目で誠実に見えたので結婚したら、旦那は酒と友達が好きで遊びばかりで家の事はいつも後回しにしました。１９９０年３月、勧士から伝導され恵みと真理教会に出て決信して熱心に信仰生活をしました。苦しい嫁いびりと遅く帰ってくる旦那のせいで一人で泣くときが多かったですが、幼い子供たちをおんぶして教会に来て神様に祈って賛美し礼拝するととても幸せでした。
そうするうちに私が担えられない試練が来ました。１９９５年５月ある日、二番目の兄が飲酒運転をする人の車に轢かれて死境をさまようことになりました。事故の話を聞いて６時間を走って 全羅南道のスンチョンにある病院に到着して兄の姿を見ってその場でへたへたと座り込んでしまいました。兄の両手と足がベットに縛られていて酸素マスクをかけていました。運転者はもう死亡をして生きた他の人も兄のように重体に陥りました。
医師は兄の脳が全部傷んで回復するのが難しいと言われました。そうしながら、すぐ首を切開して肺まで酸素呼吸器のホースを連結して差し込む手術をしなければならないと今すぐ決定しなさいと話しました。当時、私は２９歳、一番上の兄は３３歳で父と母は世の事情も知らない農夫でした。兄があちこちで事故の経緯を調べるため忙しかったです。役に立つ人が人が一人もいなかったです。前が見えなかったです。私は神様を願い祈りました。
8歳の息子と5歳の娘を妹にあずかって15日間、親と交代に兄の介護をしました。言葉を失って記憶喪失で植物人間になり集中治療室で横になっている兄を起こさせ体を洗ったりなど介護することがとても大変でした。今までやったこともなく見たこともない喉に痰を抜くサクションをするときとても怖くて恐ろしかったです。一か月が経ってもよくならなかったです。家に戻って来たら家事や税金を払って残ったお金を持って病院に行くのを繰り替えました
私には息子と娘が私の人生の全部でした。そんな子供たちを姑が面倒を見ると思いましたが、姑は慰める電話もなかったです。理解ができなくて、恨めしくて心が痛かったです。旦那にも恨めしかったです。神様に祈って神様の助けだけ求めました。人には何一つ頼られない状況でした。家族の中でイエス様を信じる人は私一人でした。私は苦痛の中でヨナのノリを考えながら切に神様に祈りました。
兄が事故にあって43日になった日でした。私が隣で祈っていましたが、兄の意識が回復して瞬間を思い出したが、叫んで逃げる身振りをしました。私は驚いてうれしい心で看護師室に走って行きました。本当に奇跡なことが起こりました。その時から今まで兄に讃美歌と説教を聞かせて読ませました。
兄の介護をして私の体重が８㎏も痩せました。旦那と別れて姑を機嫌を伺わなくて兄の介護だけ専念したかったです。旦那と姑を理解させる自信はなかったし、だんなに重い負担をかけたくなかったからです。それで、ある日は旦那の前でひざをまずいて“あなたを愛して子供達もとても愛しているが、今は兄を生かせるのが先だ”と言い離婚してくださいと願いました。すると、旦那はなぜ“一人でそんなに重い負担をかけようとするのか。私と子供たちはあなたにどのような存在なのか？と聞きました。その後、旦那はよくシュンチョンに降りて来て兄にの介護をしてくれました。旦那が大きい力になり、ありがたかったです。入院して1年になると病院でやることがないと言われて障害2級の判定を受けて退院させてヘナムの実家に来ました。意識は戻ってきましたが、おむつを入れ替わったり 拭うなど介護をしなえればならなかったです。多くの借金、疲れた体と心、認知症にかかった祖母、涙が止まらない日がない続く父と母でした。それにもなかなか心を開かなくて伝導してもイエスキリストを受け入れませんでした。
そのように14年が過ぎてもっと大きい試練が来ました、今回は一番上の兄が事故にあって重体の状態で 光州の大学病院の集中治療室に入院しました。兄は”イエス様を信じて救いを受けてください。私の話を聞き取れなくて、目も開かなく 一言も話せないまま事故の13日ぶりに死なれました。“目があっても見れなくて、耳があっても聞けない。”とおっしゃたイエス様の御言葉が思い出しました。葬式をしてから私は神様が与えてくださった慰めと力を受けて体と心を整えて熱心に神様に礼拝し主を仕えながら家族を伝導しました。伝導と私の祈りが無駄ではなかったです。兄の病気と1番上の兄の死を通して人生のむなしさと人の無能を切に感じて偶像崇拝して占いを信じた事がむなしい事であることを知った父と母と妹は結局、イエス様を受け入れて村の教会に行って決信をして神様を信じるようになりました。その後、母は先に天国に召されて、父と兄と妹はアンサン聖殿で熱心に神様に礼拝して永遠な命を得て福ある人生を生きています。私はアンヤン聖殿で主を仕えています。神様がそのような頑なな姑も救ってくださいました。
23年間を振り替えてみると多事多難だったし、大変なことが多かったです。神様の慰めと助けがなかったならば私は担えられない苦難と逆境の連続でした。今まで私とともにしてくださり、私を守ってくださった神様に感謝と賛美をささげます。そして、まだ、イエス様を信じない義姉達と嫁が救われるように神様に祈ります。神様の時になるとすべての家族が救われて祈りと賛美することを期待して感謝し神様に祈りを捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　健康と病気の癒しのためにお祈りしなさい

＂愛する 者よ.　あなたのたましいがいつも 惠まれていると同じく,　あなたがすべてのことに 惠まれ,　またすこやかであるようにと,　わたしは 祈っている. ＂（ヨハネの第三の手紙２節）

ヨハネの第三の手紙 2 節の内容の中で体と心の健康に対する聖書の教えを調べてみましょう。私達が病気を癒されるために神様の求める理由があります。
第一は、愛と権能が無限でおられる神様を信じるからです。親が愛を愛するするが、その愛で自分の子の苦痛を全て解決してあげることはできません。問題を解決することができる権能があるべきです。しかし、神様は愛と権能を全て持たれた方でおります。
第二は、神様は御自分を指して癒す医者だと言われ、実際に彼の民を癒してくださったからです。エジプトで自由を得て出たイスラエルの民が紅海を渡った直後に神様は御自分を指して＂わたしは 主であって,　あなたをいやすものである 。＂と言われました。
第三は、イエス様が 3 年半の間の活動を通じて病気の者を数多く癒されたからです。新約聖書の福音書の中でマタイ、マカ、ルカによる福音書にはイエス様が病気の者を癒される事件で満たされています。病気の癒しを受けるためにイエス様に進んできた人の中で外面されて退かれた人は一人もいません。
第四は、イエスキリストによる救いの恵みの中で病気の癒しが含まれているからです。イエスキリストによる救いはとても広範囲であります。罪の許しを得させて正しくなること、サタンの誘惑と悪に対して勝利するようにすること、肉体の復活と新たなエルサレムに入る、豊かにしてくれることが含まれています。そして神癒も含まれています。
第五は、イエス様が弟子達に病んだ者癒すことをするよう命じられたからです。弟子達がイエス様の御言葉に従って行う時に病気の人が癒されるしるしが従いました。
第六は、キリスト人は病気の癒しを受けるためにお祈りすべきだと聖書に記録されたからです。義人のお祈りは大いに力があるとしました。ここでの義人とはイエス様を信じる人を指します。
第七は、病気を癒されるためにお祈りして癒しを経験すると様々な有益を産むからです。病気が癒された人の信仰が増進されます。病気の癒しを受けたことによって神様に感謝と光栄を捧げます。不信者達に主の愛と能力を見せる証拠になり、福音の伝播に役立ちます。そして健康な体で主のことに積極的に励むようになります。
人は誰でも健康な生活をするのを願うが、この世で生きる間に疾病の脅威から解放された人は誰もいません。しかし私達が心を開いて聖書を相考すると驚くべきな事実を分かります。神様は私達が健康であるように願われて、私達の病気を癒すために今も働いてくださるということです。だけではなく、神様は教会と聖徒達に病気を癒す使命を与えたということです。
今日、医術と医薬の発展は驚くべきだと言えるでしょう。神様は病気の体を癒すことに有益な材料を植物、動物、鉱物の中に置かれて治療薬と治療器具を作るよう人々に知恵を与えられました。従って、医者の診断と処方を受けながら薬を飲むことは信仰から外れたことではありません。しかし、その方便の中で働く神様の御手を見過ごしてはなりません。それだけではなく、医術としては癒すことのできない場合に神癒の恵みによって癒されることがいくらでもあります。＂イエス・キリスト は,　きのうも,　きょうも,　いつまでも 變ることがない. ＂という御言葉通りに今も病気を癒してくださるよう求めて主に進んでくる者を主は哀れんでくださり、癒してくださいます。
皆さんは、病気の癒しのためにお祈りする七つの理由を考えて積極的に神癒を求め、健康と病気の癒しを受ける恵みを享受してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエスのためにつまずく人々

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

「わたしにつまずかない 者は，さいわいである」この言葉は、イエスが自ら言われた言葉です。「つまずく」と翻訳された原語は「スネア、トラップ、障害物」という意味を持つヘブライ語をギリシャ語に翻訳したもので「道に置かれてつまずきの障害」と意味します。したがって、「つまずきである」という言葉は、信仰の道で「つまずく、離脱する」という意味を持ちます。信仰生活を聖書には、レースと例えています。信仰生活のレースは障害物の競走と似ています。超えさせる障害物がたくさんあります。「つまずきになることがないのはできない」と、イエスは言われました
ところが、驚くべきに、イエスが「わたしのためにつまずかない者は幸いである。」といいました。果たしてイエスのためにつまずく人があるかということを考えさせますが、実際にはそのような人々が相当あります。つまずく人々によってつまずきになる場合は、両側が問題であります。しかし、イエスによってつまずきになる場合は、つまずくその人に問題があります。今日は、イエスにのためにつまずく人々について見てみましょう

第一は、イエスにのためにつまずく人は、イエスの知識と信仰が聖書どおりではないからです。

ある日、バプテスマのヨハネが自分の弟子たちをイエスにつかわして」来られる人があなたですか、私たちが他の人を待つのですか？」という質問をしました。どうしてこのような質問をするようになったでしょうか。バプテスマのヨハネはメシアであるイエスがこの世を裁きし、イスラエルの国を回復することで知っていました。ところが、いざイエス様が行なわれることについてニュースを聞いてみると病人を癒し奇事と奇跡を行なうことだけで、審判の兆しが見えていない。イエスは答えて**「イエス は 答えて 言われた，「行って， あなたがたが 見聞きしていることを ヨハネ に 報告しなさい．盲人は 見え， 足なえは 歩き， らい 病人は きよまり，耳しいは 聞え，死人は 生きかえり， 貧しい 人々は 福音を 聞かされている．わたしにつまずかない 者は，さいわいである」（マタイによる福音書 11：4-6）**しました。イエス様がこの世に来られた目的は、治癒することと罪の赦しを受ける福音を宣べ伝えることを明らかにしました
罪人の罪を贖うようと初臨するイエスと将来この世を裁きしようと再臨するイエス様は同じ方です。バプテスマのヨハネは、キリストの初臨と再臨と両方の事件の間の時間的間隔を知らなかったです。
自分が望んで理解する通りの、イエス・キリストであることを望んでいる人は、信仰の道でつまずきすることができます。

使徒パウロは、コリントの信徒たちに向かって、戒め、責めるのを「もし誰が行って私たちの伝播しない他のイエスを伝播したり、あらゆるあなたの受けていない他の霊を受けるか、あらゆるあなたの受けていない他の福音を受けるとするときは、あなたがよく容認するのだ。」としました。つまずきした者に向けて切なさと惑わす者の神聖な怒りを抱いた言葉です。 「他のイエス」と、イエスの弟子たちが伝播するイエスとは異なるで知られ、歪曲されたイエスを指すことです。その種類はいろいろあります
第一に、イエスを歴史上の実在の人物ではなく、神話や伝説に属する人物と言う人があります。イエスは今から 2 千年前に聖母マリアの体で聖霊によって孕って人に来られた神様の独り子であります。新約聖書の福音書に記録されているマリアから生まれは、超自然的で、または出産は正常でした。イエスは 33 年間、この地で活動しました。この事実を否定したり、歪曲に教える者の言うイエスは、聖書の通りではなく、「他のイエス」です
第二に、イエスを歴史上の実在の人物であると認めながらも、ただ宗教的に顕著なくらいに過ぎない神の独り子ではないと言っている、人があります。イエスは聖子の神様です。父なる神の遣わされてこの世に来られました。ヨハネによる福音書 1 章に記録されることを**「そして 言は 肉体となり， わたしたちのうちに 宿った． わたしたちはその 榮光を 見た． それは 父のひとり 子としての 榮光であって， めぐみとまことに 満ちていた」（ヨハネによる福音書 1:14）**しました。イエスが言うのを**「わたしと 父とは 一つである」**としました。イエスをただ普通の人よりも優れた人ほど知っている人が認識しているイエスは、聖書の通りではなく、「他のイエス」です
第三に、イエスは、実際に肉体を持っておられるのではなく、神が人に幻を見るようにしたと言う人がいます。だから、キリストとイエスを分離して言います。キリストがバプテスマを受ける人間イエスの上に降臨たが十字架の苦難を受ける前に彼を離れたと教えています。しかし、イエスは肉体を着てこの世の中へ来られ、苦難を受けて、十字架につけられ血を流して死なれた神の独り子である。これを否定する人が言うイエスは、聖書の通りではなく、「他のイエス」です
第四に、イエス様がくぎつけられて死んだのは事実だが、復活しなかったと主張する人がいます。イエスが完全に死なれたのではなく仮死状態にあるが生きて墓を脱出したと言う者がいます。弟子たちが体を移し隠れて、イエスが復活したという虚偽を広めたと主張する人がいます。弟子たちがイエスの復活をも願ったので、幻を見て、それが実際のように感じたと主張する人がいます。どのような主張でも、イエスが復活されたことを信じていない人が言うイエスは、聖書の通りではなく、「他のイエス」です
イエスは神の子であり、肉でこの世に来られ生きて十字架につけられ死なれました。そして葬られてから三日目によみがえられました。これらと異なり考えている人が言うイエスは、聖書の通りではなく、「他のイエス」です。″異なるイエス″を伝播する者は、聖書に呪いが宣言されました。「他のイエス」を信じる人は救われていません。聖書に啓示されたままの、イエス・キリストについての知識と信仰にしっかりと立たなければ迷いを受けてつまずきの危険性を持っています。

第二には、イエスによってつまずきになる人は、イエスを信じる理由が間違っているからです。

バプテスマのヨハネの弟子たちが行った後、イエスは質問しました。「あなたがたは何を見ようと荒野に出て行ったのか」人が荒野に行った理由は、バプテスマのヨハネが叫ぶ説教を聞いて、彼にバプテスマを受けるためのものでした。「あなたがたは何を見ようと荒野に出て行ったのか」という質問を、「あなたがたは何を見ようと、教会に行くのか？」という質問に変えて見ることができます。教会に通うのと信仰生活をすることは概ね同じ意味で使用されます。信仰生活をする理由は単純ではありません
ところが、主な理由は、肉に属するものであれば、いつかはつまずきができます。それはいろいろのタイプがあります。 第一に、現実の生活で自分が祈って信じたのと別の方法に事が進んたり、結果が出れば、イエスを信じても仕方ないという考えをして、信仰を捨てます。第二に、イエスを信じることが、自分が希望する欲望を満たすために支障をきたすと判断されると、信仰を捨てしまいます。第三に、教会生活の中で心に傷を着ることにあえば、信仰を捨てます。第四に、激しい迫害にあえば、信仰を捨てます
つまずかないとすれば、イエスを信じる主な理由は救い得るためにならなければなりません。救いの核心は、罪の赦して永遠の命を得て天国に行くことです。イエス・キリストだけが、私たちに救いをくださる救世主であります。イエスは言うのを**「イエスは 彼に 言われた， 「わたしは 道であり， 眞理であり， 命である． だれでもわたしによらないでは， 父のみもとに 行くことはできない」（ ヨハネによる福音書 14：6）**しました。使徒ペテロが聖霊に満たされて叫びのを**「この 人による 以外に 救はない． わたしたちを 救いうる 名は， これを 別にしては， 天下のだれにも与えられていないからである」（使徒行傳 4:12）**しました
使徒ペテロは聖霊の感動を受けて記録した手紙で**「あなたがたは，イエス キリスト を 見たことはないが， 彼を 愛している． 現在， 見てはいけないけれども， 信じて， 言葉につくせない， 輝きにみちた 喜びにあふれている．それは， 信仰の 結果なるたましいの救を 得ているからである」（ペテロの第一の手紙 1：8,9）**しました。ヘブル人への手紙に記録されることを**「わたしたちは， こんなに 尊い 救をなおざりにしては， どうして報いをのがれることができようか． この 救は， 初め 主によって 語られたものであって， 聞いた 人々からわたしたちにあかしされ，さらに 神も， しるしと 不思議とさまざまな力あるわざとにより， また， 御旨に 従い聖靈を 各自に 賜うことによって， あかしをされたのである」（ヘブル人への手紙 2：3,4）**しました。

人に救いを得ることより大きいなのはありません。イエス・キリストを離れては救いがありません。魂の救いがイエス・キリストを信じる主な理由である聖徒たちは、イエスによってつまずくのが決してありません。聖徒の皆さんは、**「誰でも私によってつまずかない者は幸いである。」**イエス様の御言葉にアーメンと応えをしてください。